

ODDS オッズ ある出来事が発生しない確率に対する発生する確率の比。あるいは、あることがそうでない確率に対するそうである確率の比。もし 60 人の喫煙者が慢性の咳を生じ、40 人が生じないならば、これらの 100 人の喫煙者で咳を生じやすいことのオッズは、60:40、すなわち 1.5 となる。これは、これらの喫煙者が咳を生じる確率 60/100、すなわち 0.6 と対比され得る。

ODDS RATIO オッズ比 (同義語: cross-product ratio 交差積比, relative odds 相対オッズ) 2 つのオッズの比。オッズ odds という用語は、論議されている状況に応じてさまざまに定義される。母集団もしくは標本中における疾患と曝露との二元的な分布について次のような記号で表示されたものを考えてみよう。

	曝露	非曝露
疾患	a	b
非疾患	c	d

オッズ比 (交差積比) は ad/bc である。

一連の症例対照研究データの曝露オッズ比 *exposure-odds ratio* は、症例群において曝露が寄与するオッズ a/b と、非症例群において曝露が寄与するオッズ c/d との比である。これは ad/bc の形に変えられる。発生症例、バイアスのない対象者の選択および“まれな”疾患 (例えば、研究期間における累積罹患率が 2% 以下) という条件で、 ad/bc はリスク比 RISK RATIO の推定値となる。発生症例、バイアスのない対象者選択および対照群の密度抽出 DENSITY SAMPLING を条件とする ad/bc は、曝露群と非曝露群における人-時罹患率 (罹患力 FORCE OF MORBIDITY) 比の推定値である (この場合はまれという仮定は必要でない)。

コホートや断面集団についての疾病オッズ比 *disease-odds ratio* (率オッズ比 *rate-odds ratio*) とは、曝露群において疾患が寄与するオッズ (a/c) の非曝露群において疾患が寄与するオッズ (b/d) に対する比である。これは ad/bc で表され、ここではコホートあるいは断面集団に対する曝露オッズ比と等しい。

有病オッズ比 *prevalence-odds ratio* とは、横断調査から求められたオッズ比に関するもので、例えば罹患者よりむしろ有病者の研究から得られたオッズ比である。

リスクオッズ比 *risk-odds ratio* は、曝露された場合に疾患にかかるオッズと、曝露されない場合に疾患にかかるオッズとの比である。コホート研究から得られたオッズ比はこの推定値である。CASE CONTROL STUDY 症例対照研究も見よ。

ONCOGENE がん遺伝子 細胞の腫瘍性形質転換を生じせしめることのできる遺伝子。がん遺伝子は正常な遺伝子が軽度に形質転換されたものと同等のものである。

OPEN-ENDED QUESTION 自由回答形式質問 選択回答形式の質問、すなわちあらかじめ用意された一連の回答肢に応じるのではなく、回答者自身の言葉で回答してもかまわない形式の質問。自由回答形式の質問は統計学的解析のためにコード化し、分類するのに困難を伴うことがある。